

鹿児島県授産施設協議会からのお知らせ

平成24年度

九州授産施設(セルプ)研究大会

改革のなか現場の声を今



▲ 鹿児島県社会福祉協議会 溝口会長あいさつ

平成24年10月11日(木)～12日(金)の二日間、「九州授産施設(セルプ)研究大会」が九州各県から424人の参加のもと、鹿児島市内のホテルで開催しました。

開会式典の中では、九州北部豪雨災害義捐金の目録贈呈が全国社会就労センター協議会の近藤会長から九社連授産施設協議会の佐多会長へ手渡され、被災された福岡・熊本・大分3県に配分することになりました。

引き続き、近藤会長の基調報告、厚生労働省障害福祉課 辺見課長の行政説明の後、今回の大会テーマ「改革のなか現場の声を今」に沿って、初めての試みとして職員を対象にした職種別の3分科会をグループ形式で行いました。



▲ 義捐金目録の授与



職種別分科会

第一分科会では「個別支援の考え方と実践」として、桃山学院 大学 松端教授の講義を主体に行い、第二分科会では「工賃向上と多様な就労支援の取り組み」として、「一般就労」と「福祉的就労」の事例発表を行い、第三分科会では「報酬・加算について」として、厚生労働省障害福祉課に寄せられた意見・要望等を杉淵 就労支援係長が回答する形で進め、各分科会では講義や事例発表等の後、問題点や疑問等について積極的に討議が行われました。

二日目は、地元・鹿児島県の取組事例「ナイスハートバザール・イン鹿児島」と「おじゃったモーイン さつま川内館」の報告に続き、北九州市在住の渡辺知子ご夫妻による感動の音楽講演が行われました。

大会最後の閉会式では、九授協の上田副会長による恒例の大会決議(案)の朗読が終わると会場で拍手が広がり、採択が宣言されました。

なお、来年度は熊本県で開催されます

豊穣の秋に「なた豆」栽培事業で工賃向上を!

収益の上がる農業で、働く利用者の工賃向上を達成しようと始良市の「セルプあいら」では、平成24年度「なた豆の共同契約栽培」に取り組みました。

一昨年前よりなた豆の特性や専門知識等を学び、既に生産されている農家を訪ねては情報を集め、鹿児島県授産施設協議会の農業技術指導員指導のもと、満を持して、契約栽培事業を開始しました。

なた豆は、「ジャックと豆の木」のモデルと言われており、短期間でグングンと天へ伸びる太い蔓と30cmを超える大きな鞘が大変特徴的な植物です。

酷暑と呼ばれた夏の管理作業に、黙々と利用者が取り組んだ努力が多くの実りを迎えられる原動力に他なりません。

なた豆の評価も上々で、予想を超える成果は、利用者の大きな自信になりました。

初年度収量目標:150kg(反当り) ▶ 収量実績:200kg強(反当り)



▲ なた豆栽培班の利用者

▼ なた豆と大きく育った豆さや→



皆さまに支えられて25年、感謝の心がたちになりました。

第25回 ナイスハートバザールin鹿児島

開催会場:山形屋デパート 6階催物会場他 ▶▶ 日程:平成25年2月15日(金)～18日(月)